

## 令和3年度 第2回 長野市災害復興計画検討委員会

日 時：令和3年12月27日（月）午前10時から午前11時20分

場 所：第一庁舎5階 庁議室

出席者：委 員 長野市災害復興計画検討委員会委員名簿のとおり

（神農委員、北村委員は代理人出席）

事務局 萩原市長（冒頭のみ）、池田総務部長、西澤企画政策部長、清水財政部長、宮岡地域・市民生活部長、中澤保健福祉部長、日台こども未来部長、伊熊環境部長、下平商工観光部長、小林文化スポーツ振興部長、櫻井農林部長、小林建設部長、岩片都市整備部長、樋口教育次長（行政担当）、町田上下水道局長、佐伯消防局長、村上総務部危機管理防災監、中村総務部公有財産活用局長、小池企画政策部復興局長、復興推進課職員

### 1 開会

2 委員委嘱 令和3年12月31日任期満了に伴い、令和4年1月1日から2年間の委嘱  
※全委員が再任

※時間の制約により委嘱状は委員の机の上に置かせていただいた。

3 委員長・副委員長の選出 互選により、松岡委員長及び寺田副委員長を選出

4 市長挨拶

5 松岡委員長挨拶

6 議事

※事務局から「(1) 長野市災害復興計画の進捗状況報告（令和3年度 上半期）について」について説明

### 【質問・意見】

<委 員>スライド5に千曲川堤防の強化工事、篠ノ井塩崎、軻良根古のあたりを中心にして工事等やっていただいております。その他に岡田川の河口も排水機場の関係で着工いただいております、これが早めに完成してもらえればありがたいというのが地区の要望でもあります。細かいところで、岡田川の上流の瀬原田新橋から杉の子という橋の間に、前もお話ししましたが、柳の木が大きいもので樹高が10mを超え、幹の直径も20cm以上になっていて、どんどん太くなっており、10年ほど前にこの川が増水した時は、そこに柳の木がいっぱいある為にゴミ等がつかかって、市営住宅等への氾濫や越水があったわけであり

まして、早めに柳の木を撤去していただければありがたいということで、お願いであります。

<吉川長野建設事務所長> 前回も同じご要望をいただいて、建設事務所の担当者が現場を確認して、順次、危ないところから着手する予定でありますので、よろしく申し上げます。岡田川と千曲川の合流点のポンプですが、基礎工事が終わり、これから水槽やポンプの設置等進めてまいります。今のところプロジェクトに位置付けた6年度の完成ということでやっておりますが、いくらかでも前倒しができるようにこれから調整してまいりますので、よろしく申し上げます。

<委員長> 飯綱町の斑尾川にしろ浅川や浅川の支流にしろ県単ではなかなか予算が付かなかったのが、今年の夏、河床の土砂などをきれいに撤去してありまして、確認したところ、強靱化がらみなどもあって普段なら県単では予算的に無理だけど、今年の夏、急にできた、ということがあって、これは全河川、岡田川なんかもこれでやっているのでしょうか。

<吉川長野建設事務所長> 国土強靱化5か年加速化対策というのがあって、昨年度の2月補正の予算がついております。これからの話ですが、今年も同じ様に加速化の補正ということで、河川内の浚渫ですとか支障木の伐採、さらには堤防強化について予算がございますので、特に気になるようなところがあれば建設事務所の方へ言っていただければ、すぐ現場を確認しまして着工する段取りを行いますので、今おっしゃられた場所以外の所でも気になる所を建設事務所に言っていただければと思います。

<委員> 私たちいろんな地域でコミュニティを作っているんですけど、スライド35のところの保健師さんの相談事というところで、この数が多いのか少ないのか私たちにはわかりませんが、ここの数に入らないくらいの地域でのささえあいまいたいのがとても力になっているというのを私たちも聞いたり目にしたりしています。この数字というのは保健師さんの所や市に相談に行く数だと思うんですが、でも、本当に悩んでいる人でそこに行かれない人っていっぱいいて、それを支えてくださる地域の仲間とかそういう支えなどが、とても大きな数があるんじゃないかと。ですから、行った人の数もちろんですけども、これによって救われている、前に目を向けることが出来たっていう人たちを私たちは拾っていかなくちゃいけないし、きちんとしていかなくちゃいけないかなと思います。言えないんですね。市へ行って相談することができない人がいっぱいいるので、こういう数字というのは出てきた数字ですけども、地区の保健師さんはとても大事で、ぜひぜひ訪ねていただきたいと思うくらいいろんな悩みを抱えている人がいますけど言えない、そういったところの支援というところを強力に推し進めていただきたいという、意見としてですが、ぜひよろしく申し上げます。

<委員長> 民生委員とか社協とか、市も包括支援センターとかそういうところがうまく連携して、民生委員が地域を一番近くというか、単位を小さくして預けられているので、そうい

うところの情報交換がうまくできるようなシステムになっているといいかもしれないですね。

<委員>なかなか訪問をしていただけないというか、会えない、コロナということの影響で、民生委員になったきり、なかなか繋がりができていないという人たちもいっぱいいますので、その前の人たちとか仲間の人たちはとっても大事なので、そこは私たちも大切にしながら進めています。

<委員>スライド7、8の千曲川の遊水地の整備がありますが、素朴な疑問ですが、立ヶ花狭窄部の下流に上今井遊水地ができるようですが、狭窄部より上流の方が効果はあるかと思うんですが、そのあたりよくわからないのでこの辺の見解をお聞きしたいと思います。

<齋藤千曲川河川事務所長>遊水地については、立ヶ花基準点の上流に3箇所（埴生・平和橋・塩崎）、下流に2箇所（蓮・上今井）を計画しています。基本的に遊水地の役割は「千曲川本川の水位を下げるために水を貯め込む」というものになります。上流側3つの遊水地は、堤防決壊した穂保地区を含めた立ヶ花までの洪水を貯め込む役割があり、下流側2つの遊水地は立ヶ花狭窄部掘削に伴う流量増加分の洪水を貯め込み、下流への負荷を軽減する役割があります。現在、洪水時にせき上げ区間となる立ヶ花から村山橋間の水位を下げるために立ヶ花狭窄部を掘削していますが、遊水地も含めた上下流バランスを考慮した整備（負荷が上下流で偏らないような整備）が今後必要となります。

<委員>雨の状況にもよりますが、犀川水系もあり、そちらもどこかに遊水地が必要ではないかと思うのですが、その辺はどうでしょうか。

<齋藤千曲川河川事務所長>犀川では、今年の8月出水があり、堤防の欠損などが発生しました。その際には、直轄管理である大町ダムの洪水調節に加えて、東京電力の所有するダムに治水協力を頂いて洪水時の水をため込む等の操作を行い、洪水時の本川水位を下げました。犀川筋ではこういった東京電力と治水協力をして洪水に備えています。また、大町ダム再編事業ということで東京電力の高瀬・七倉ダムと大町ダムと合わせて、さらに洪水の調整容量を増やすという事業を実施しています。

<委員>おかげさまで、松代の河川の関係のところはかなり手を入れていただいて、かなりきれいになってきたなど、そんな思いをして感謝しております。一つ提案なんですけど、例えば千曲川の所にも物差しの親分みたいな大きなのが土手の所にあって、何メートル水が来たのかわかるようになっていきます。あのようなものを橋脚に大きく塗ってくれて見えるようにしてもらえれば、地域の人たちがそれを見て、あっこまで来てるぞというのが分かって、だから避難しなきゃいけないとか、そういう方向に気持ちを持っていけるようにしておけばもっと早い避難に繋がるのではないかなと思うのですが、提案です。

<吉川長野建設事務所長>おっしゃるとおり、水害を見える化、どこまできたら危ないんでそろそろ避難の準備をしましょうとか、どこまできたら逃げましょうとかいうのは、そういった情報を出すことは重要だと思っております。水位や色を付けて、黄色だったらそろそろ準備、赤ならもう危ないんで逃げてくださいということをやっております。合わせてそれをカメラで写して公表して切迫感のある川の情報を伝えようということをやっております。提案のあった護岸、堤防や橋脚にやってほしいということで、場所を、具体的にここであれば住民の方が見やすいだとか橋の上から見通しやすいだとかいうところがあれば教えていただければ我々の方で設置の方やっていきたいと思っておりますのでご協力お願いしたいと思います。

<委員>特に私たちにとっては千曲川へ流れなくなると完全に内水氾濫になるとイコールなものですから、そうなってくると千曲川の方の水がどこまできているかどうかがもっと大事なんです。そうなると千曲川の方の水位のほうをそうやってもらえるのが大事なんじゃないかなと思うのですが、県の方はまだどちらかというところと近所の人が見える可能性があるのか、いかがでしょうか。

<齋藤千曲川河川事務所長>国としては、視覚的に危険性が判断できる量水標を橋梁に設置したり、水位観測所の水位情報をインターネットで確認できるようにしています。堤防まであと何メートルといった細かな水位情報が確認可能です。

<委員>いつでも最後はネットになるんですよ。最後はネットになって終わっちゃうんです。ではなくて、ネット見てるよりも直接見た方が早いんです。地域を通っているときに、ドキッとした感覚が避難に繋がるかと思えます。それにはネットではなくその場所なんです。

<齋藤千曲川河川事務所長>洪水時の堤防周辺は大変危険であるため、現地には行かずにインターネットで配信されているCCTVカメラの映像で現地状況を確認していただければと思います。

<委員>ひとつだけでもいいんですが、橋脚の所に色をつけてみてもらって、他の人たちがそれを見て、こっちの方が分かりやすいから良いと言うのか、それではみともないからいらぬとなるのか、なんかもっと人間的でありたい。

<村上危機管理防災監>市の方では災害のリスクが高まった場合には避難情報を発令させていただいているところでございます。流域タイムラインということで今までよりも早い段階で警戒をしていただくということで、千曲川河川事務所はじめ県、市、流域のほかの市町村も含めてタイムラインということで早め早めの警戒をして、そのリスクが高い状況を地域の

皆様にお知らせするという取り組みを始めておりまして、8月のお盆の時もそんな形で運用させていただいております。今、所長からお話のとおり、川の状況を見て逃げるというのもあるかと思いますが、逆に危険な場合もございますので、そうなる前に市の方でも皆様にリスクをできるだけ確実に伝達させていただくということで取り組みを始めておりますのでよろしくお願いいたします。

<委員長>100%は満足しておられないと思いますが、今の伝達についても、見て、例えば岐阜市内だと長良川の水位がここですというのがあって、自分たちがそんな低いところで生活や商業活動しているのかわかって、わざわざ川に行かなくても役所とか支所、地域の中のどこかで、たとえば支所の玄関行けば今の水位がわかるみたいな、目で見れるようなものなど、話し合っってこんな方法もあるよとか、あまり、維持管理費もかからないように、目を見て水害時にはここまで来てましたというのと一緒にしたようなものがあるとか、そういうのも危機管理防災課と相談してみても悪くはないかなと、そういう市もあるわけで、意識の新しいうちに、ああやったらこうやったらと話しておけばいいのではないかな。全部の所で千曲川河川事務所がやるのは大きな課題も抱えて難しいかと思いますが、県、市が連携して、特に市、危機管理防災課が出先とかと連携してやるという方法もあるのかなと思います。

<吉川長野建設事務所長>映像で見せるのが切迫感があってわかりやすいということで、河川監視カメラをいろいろつけているところです。それをどこで見させていただくかということ、今はネットですが、ネットが難しいとなると、それをケーブルテレビとかマスコミと協力しながら、皆さんに見てもらわないと宝の持ち腐れになってしまいますので、どういう風な見せ方をすれば、住民の方に見ていただいてそれを使っただけなのかということは大変重要だと思います。市の方とも調整してみたいと思います。

<委員長>技術はどんどん発達してきて、そんなことも出来るようになったのというような時代ですので、お金かからず尚且つ一般の人も年寄りもみんなも見えてわかるようになればすね。みんなスマホで見ろというようになれば、アクセスすること自体が一回もやったことがない人はなかなか難しいのではないかな。素晴らし情報をもっているのをそれをどうやって見せるかということですね。

<吉川長野建設事務所長>NHK の防災アプリがあってスマホに入れてもらえると自分が見たいカメラをあらかじめ登録しておけます。一回アプリをスマホに入れて登録しておいて気になる所がでてくるということになります。なかなか広まらない、スマホに慣れてない方、使えない方など、こちらからうまく情報が伝わるような方法を考えていかないといけないと思います。

<委員>今、お話ありましたネットの伝達手段は非常に重要な観点だと思っております。なんでもネットというお話がございましたけれど、それ以外に市が整備しているデジタル防災

無線を使う方法、それからなかなか費用がかかって難しいかもしれませんが個別受信機、一般のテレビやラジオ、ケーブルテレビであるとか、それから支所にサイネージを置くとかいろいろ手段があるかと思います。もう一つ問題なのは伝達の内容です。私も今回資料を出させていただいているのですが、台風 19 号の時に各地区で写した河川の様子、それがカメラの管理地区名と呼ばれたり、地元の人がそれがすぐ近所のカメラだというのがなかなか気が付かなかったという話もございます。今 NHK と一緒に伝え方、どういう伝え方をすればいいのか、カメラ名が、あそこの橋のたもとなんだとかがすぐわかるような伝え方はどうすればいいのかとか、それからアナウンサーがいつも落ち着いてしゃべるのではなくて、緊急時には、逃げろとか命令口調でしゃべるとか、どういうしゃべり方をすればいいのかについても検討してもらっているところです。それからもう一つ重要なのは訓練、例えば日ごろからラジオを常に身につける習慣を付けていくとか、災害時を想定して避難訓練の時にサイネージとかネットとかを使ってみるといふ訓練が必要だと思っています。さっきの NHK のアプリも使い方が普段からわかっていないといけないので、訓練の時にみんなでアプリを入れてみようとか使ってみましょうとか、ラジオを聞いてみましょうとか、そういうことが必要なんじゃないかと、そういう総合的なことを入れた情報伝達手段の確立が必要だと思っています。

#### ※（２）長野市災害復興計画検討委員会の今後について

**【事務局】**本委員会の今後については冒頭の説明のとおり、1月1日から2年間新しい任期でお願いするようになります。復興計画は5年間の計画となりますので、進捗状況を報告させていただき、進捗管理を今後も引き続きお願いしたいと思います。

#### 7 その他

<長野地域振興局長> 防災ボランティアによる地域での防災教育“赤牛”先生派遣事業について

「長野地域版 ONE NAGANO.NET」について



赤牛先生派遣事業



ONE NAGANO.NET

<委員> 「2019年長野市で発生した台風19号の災害におけるICT技術の利用状況と今後の展望」について

**【事務局】** 長野市災害復興計画検討委員会の次回日程について（令和4年6月頃）

## 長野市災害復興計画検討委員会委員名簿

(順不同、敬称略)

区分	団体名・職名等	氏名
被災地域代表	古里地区住民自治協議会 会長	金子 祐三
	長沼地区復興対策企画委員会 副委員長	岩崎 隆裕
	篠ノ井地区住民自治協議会 前副会長	早川 孝志
	松代地区住民自治協議会 前会長	町田 修
	若穂地区住民自治協議会 副会長 (若穂地区区長会 会長)	竹内 守雄
	豊野地区住民自治協議会 会長代理 (豊野区 区長)	善財 孝文
防災・減災	国立長野工業高等専門学校 名誉教授	松岡 保正
	信州大学理事 (情報・DX担当)、副学長 信州大学地域防災減災センター 副センター長	不破 泰
	長野市消防団 前団長	高木 芳博
農業	ながの農業協同組合 代表理事組合長	宮澤 清志
	グリーン長野農業協同組合 代表理事組合長	神農 佳人
	長野市農業委員会 会長	青木 保
産業	長野商工会議所 会頭	北村 正博
	長野市商工会 会長	工藤 洋吉
	ながの観光コンベンションビューロー 理事長	鈴木 栄一
福祉	社会福祉法人長野市社会福祉協議会 会長	寺田 裕明
	清泉女学院短期大学 教授	武田 るい子
	長野市地域女性ネットワーク 会長	柳原 静子
オブザーバー	国土交通省北陸地方整備局千曲川河川事務所 所長	齋藤 充
	長野県長野地域振興局 局長	吉沢 正
	長野県長野建設事務所 所長	吉川 達也